

## 新角型間仕切下地材 施工要領

1. 前準備  
施工場所の確認。コンクリート面に支障となる不陸がないか、全体及び各部の水平の状態を確認する。
2. 発注、荷受け検収、保管  
使用数量の算出、軒高の実測を行い、揚重の手配、荷受け日時の調整、検収(荷受け部材の品種、数量、損傷等の確認)、保管場所の確保等を行う。
3. 墨出し  
建築の基準墨や地墨などにより間仕切の芯墨、逃げ墨などを所定の位置に墨だしを行ない、スタッドの割付を行う。
4. ランナーの固定  
ランナーを墨芯、逃げ墨に合わせ、端部を押さえ、900mm程度に打ち込みピンなどで、床・梁下・床板下などに固定する。  
但し、鉄骨または鋼製天井下地などに取り付ける場合はタッピングビスの類または溶接で固定する。
5. スタッドの取り付け  
スタッドは間仕切壁の高さに合わせて切断し、上部ランナとの隙間を10mm以内とする。  
角型スタッド(スタッド)を所定の間隔に建て込むが、NF型の場合、建て込む前にトビラ部分を90°以上開けておく。  
スタッドの間隔は施工図に基づき下地張りのある場合は450mm程度、仕上げ材料を直張りするか、壁紙または塗装下地の類を張りつける場合には300mm程度とし、スタッドを上下ランナに差し込み半回転して取り付ける。また、スタッドがコンクリート壁などに添えつく場合、打ち込みピン等で固定する。
6. 振れ止めの取り付け  
振れ止めは、スタッドに設けてあるパンチング孔に挿入し、振れ止めを底部につくまできっちりはめ込み、開けておいたトビラ部分を元の水平状態に戻す。  
振れ止めの向きは、フランジ側を上向きにした方が入れやすいが、上下どちらでも構わない。  
上部ランナーから400mm以内に振れ止めが位置する場合は、その振れ止めは省略します。